西ノ島で育ちました
特集：出身者インタビュー企画（最終回）

離れたからこそわかる西ノ島の好きなところ、現在の暮らしのことなど、さまざまなことをお話していただきました。

Vol.5

西ノ島町 浦郷地区出身
道前　謙作 さん

ふるさと愛があります。
西ノ島のために何ができるか、何をすべきか考えておきます。

Profile

1975 年生まれ。千葉大学法経学部経済学科（現法政経学部法政経学科）卒業後、1997 年、NTT に入社。現在は NTT 東日本勤務。趣味は筋トレ、スポーツ観戦。千葉県流山市在住。

NTTに入社して25年

松江北高校卒業後に千葉の大学に進学して、それから約30年千葉県で暮らしています。当時はどちらかと言うとまだ大量採用の時代で、業種を絞らずメーカーや保険会社など、いろいろと就職活動をしていました。NTTに入社していた大学の先輩から様々な話を聞いているとやりがいもありそうだし、当時は就職ランキングでも人気のある会社だったので、最終的にNTTに入社を決めました。入社以来、ずっと法人向けの仕事をしていて、営業をしていた頃はテレビ局や出版社のお客様とか、大きな企業を担当していました。どうすればお客様のビジネスに役立てるだろうか、喜んでもらえるだろうかと考えて提案し、受注できた時はやりがいを感じることができましたね。今は茨城県内の法人ユーザを対象としたマーケティングをしていて、ある商材を売るためにこんなことをしてみようと考えたり、販売戦略を企画する仕事に従事しています。

少年野球の指導が楽しい時間

中学時代から30歳くらいまで、大学の軟式野球サークルのOB活動などを通して野球をやってました。息子が小学生の時に近所の少年野球チームに入って、その流れで私も子どもたちに野球を教えることになり、今はそのチームの代表兼監督をやっています。土日祝日、雨の日以外は毎週練習。もう10年以上になりますね。試合に勝つのも大事ですが、中学生になっても野球を続けたい、そう思ってもらえるような指導を心掛けています。今は、子どもたちに野球を教えている時が一番充実している時間かもしれないです。いつか西ノ島ドリームスと試合が出来たら最高ですね！

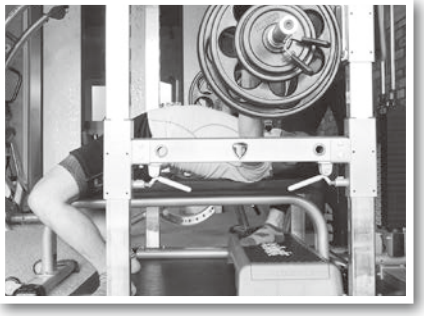
人生の第二章を想像し始めて

もうすぐ48歳なんですけど、今、FIRE(早期リタイア)とか流行ってるじゃないですか。会社の同期とか大学時代の友達と話をしてるとこういう話題がちょくちょく出るんですよね。子どもが大きくなって手が離れていくと、自分一人の時間が増えてくるので自然に考えるようになりました。本当は今の会社でまだまだやるべきことはあるんでしょうけど、それこそDX（デジタル技術を用いたビジネスモデル創出）だとか、そういう新しい分野のことを今から勉強してっていうのが、ちょっとしんどい歳になってきて（笑）。そういうのじゃなくて、何か今の自分の力や経験を役立てられる楽しいこと。具体的なプランはまだないですけど、西ノ島で暮らして子どもたちにスポーツを教えたりだとか、キャリア教育の話をしたりだとか、何かしら故郷へ恩返しのようなことをしたいと考えるようになりましたね。

元気な西ノ島でいてほしい

コロナ禍になる前は毎年夏に帰省していて、子どもが小さい頃はよく外浜に泳ぎに行ったり、親戚で集まってBBQしたりしてました。実家の近くの浦郷商店街は私が子どもの頃と比べると、お店が少なくなって寂しく感じてます。私みたいな者も外に出ちゃってるし、地元の力だけじゃ難しいかもしれないから、若い人やいろんな経験を積んだ人がどんどん外から来て、年配の方も若い方も、町全体が元気になったらいいなって思ってます。UIターンフェアとか東京でやってるみたいですけど、関東にいながらでも何かお手伝いしたり、西ノ島の広報活動ができたらいいなあと思いますね。どんなことができるのかちょっと考えてみたいです。最近テレビで西ノ島を見かけることが増えてきて、観光振興も頑張ってるし、映画などのロケ地に使われたりもしてますし、そういったことを通じて西ノ島をPRできるのは嬉しいですね。

2016 年に家族旅行で行ったグアムでの一枚。コロナが落ち着いたらまたどこかに行きたいです。



パーソナルジムでの筋トレ。今年の目標はベンチプレスの自己記録（105Kg）を更新して、115Kg を挙げること。

Q. 子どもの頃の遊びは？

近所の友達とキャッチボールしたり自転車を乗り回したり、父親と魚釣りに行ったり。夏は海水浴と祭り！神輿やたくさんの出店の雰囲気が懐かしいです。

Humans of Nishinoshima

こんにちは、島留学生の吉谷優花です。
西ノ島の人を特集する「Humans of Nishinoshima」
島の方にお話しを聞かせて頂き、全５回お届けしてきました！
寂しくも、今回が最後の連載となります。
最後は、西ノ島に住む島前高校生特集です。
キラキラしたお二人から、私もパワーをもらいました♪

先日、焼火の展望台へ
行きました！

Blog
記事の続きは
こちらから。

Instagram
町の人の写真は
こちらから。

他の記事も連載中です。「西ノ島町公式 note」で検索してみて下さい♪

西ノ島町公式 note

山下碧葉（やましたあおば）さん
西ノ島町出身・島前高校３年生
好きな食べ物：おくら

高校の授業、夢探究がきっかけで

島前高校３年生の碧葉さんは、春から北九州の大学に進学予定。教習所の勉強に英語の勉強、アルバイトと忙しく過ごしています。

島前高校では、１年生から夢探究という授業があり、地域について学び、３年間を通して深めていきます。小さいころからスポーツが好きだった碧葉さんは、大好きな「島根スサノオマジック」について探究。３年時には、代表取締役社長にインタビューを申し込んだことも。そこで社長が言った一言が、「スポーツを通して地域を盛り上げることが一番大切」という言葉。スポーツと地域が繋がっているという新しい発見に、大学の学部も迷わず、地域創生学科を選んだそう。

４月から、やりたいことに溢れている碧葉さん。「今年、沖縄でバスケのワールドカップがあるので、ボランティアもしてみたいし、北九州のスポーツチームも知りたい。スポーツが盛んなアメリカにも留学してみたいです！」と、キラキラした笑顔でお話ししてくれました。好きにまっすぐな碧葉さん。楽しい大学生活になること間違いなしですね！

島前高校で知った広い世界

島前高校２年生の彩奈さんは、西ノ島が大好きで、島に貢献したいという思いに溢れる子です。きっかけは中学時のふるさと教育。島の人にお世話になったり、島のことを勉強するうちに、愛着が湧いてきたそう。毎月広報誌で減っていく人口を見て、島のために何かしたいと、島前高校を選びました。

高校では、県外から来た子と関わる機会も増えた彩奈さん。有名塾に行っていた子や、中学受験をした子、幼稚園から一貫校に通っていた子、テレビの世界って本当にあるんだ、と驚いたそう。「テストも、中学の時は、10人中何番、高校だと 60 人中何番、大学受験になるとライバルの数が一気に何万人にも増えて・・・離島だからって受験のハンデはないし、だけど有名塾に行っていた子と戦わないといけないので、小さいときにそれを知りたかったなぁと思います」。

島に貢献したいという思いから、大学では幼児教育を学び、島の子どもたちに選択肢が沢山あることを伝えたいそう。さらに成長していく彩奈さん。今後がとっても楽しみですね♪

中尾彩奈（なかおあやな）さん
西ノ島町出身・島前高校２年生
好きな食べ物：母が作ったお弁当